

郡山にも ゾウがいた!?

展示室より
No.2



写真提供: 福島県立博物館

写真① ナウマンゾウの歯(郡山市熱海町)

みなさんはナウマンゾウをご存じでしょうか? 今から約30万年~1万6000年前に生息していたゾウです。このナウマンゾウの歯が郡山市熱海町から見つかっています。

写真①の歯は、旧岩代熱海町の町営グラウンド(現在の磐梯熱海スポーツパークサッカー場)造成中に発見されました。その後、福島大学で所蔵していましたが、2008年には福島県立博物館に譲渡され、現在も県立博物館の常設展示室でご覧いただくことができます。

ナウマンゾウは体長5~6m、背までの高さは2~3m、そして2mほどの牙を持っていました。写真②は長野県立歴史館に展示されているナウマンゾウの復元模型です。このようなゾウがかった郡山市にいたのです。

ナウマンゾウが生息していた時代、人々はまだ土器を持たず、石器を主な道具としていました。そして、ナウマンゾウなどを獲物として追い、定住せずに生活していたと考えられています。

現在では動物園でしか見られないゾウですが、かつては郡山の森などにも生息しており、それを狩って生活していた人々がいたのです。

このナウマンゾウの歯は、そんな当時の人々の生活を想像させてくれます。



写真② ナウマンゾウ復元模型(長野県立歴史館)



なお、このナウマンゾウの歯のレプリカを、大安場史跡公園ガイダンス施設で展示しております。

大安場史跡公園
指定管理者: 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社

住所: 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地
電話: 024-965-1088 FAX: 024-965-1090
Mail: oyasuba@bunka-manabi.or.jp
休館日: 月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みの日)
※公園は年中無休です。

ウェブサイトもチェック! **大安場史跡公園** 検索



おおよしぼしせきこうえん
大安場史跡公園

まるさんかくしかく

vol. 23

タイトルはまるい石銅、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。



大安場で
いろんな発見を
しよう!!



歴史講演会

大安場古墳が造られた時代 ~古墳時代前期の東北地方と畿内~

入場無料



- 日時 / 3月15日(日) 午後1時30分~午後3時
- 定員 / 100名(要申込・先着順)
- 対象 / 中学生以上
- 申込み / 大安場史跡公園ガイダンス施設窓口かお電話で



講師 / 石野 博信氏
(兵庫県立考古博物館館長)

宮城県石巻市生まれ。奈良県立橿原考古学研究所研究部長、同副所長兼附属博物館館長、徳島文理大学文学部教授を歴任。現在は兵庫県立考古博物館館長・香芝市二上山博物館名誉館長のほか、奈良県をはじめ兵庫県・会津坂下町・石巻市など、全国各地の文化財関係委員を務める。豪華な副葬品で有名な藤ノ木古墳や墓誌銘で話題となった太安万侶墓など多くの調査に携わり、特に纏向遺跡の発掘調査では、出土土器の研究から同遺跡の都市的な役割を提唱。

平成27年 3/15(日) 午後1時30分~午後3時

大安場古墳の造られた背景について
近畿地方の事例と共に考察します。

宮城県石巻市生まれ。奈良県立橿原考古学研究所研究部長、同副所長兼附属博物館館長、徳島文理大学文学部教授を歴任。現在は兵庫県立考古博物館館長・香芝市二上山博物館名誉館長のほか、奈良県をはじめ兵庫県・会津坂下町・石巻市など、全国各地の文化財関係委員を務める。豪華な副葬品で有名な藤ノ木古墳や墓誌銘で話題となった太安万侶墓など多くの調査に携わり、特に纏向遺跡の発掘調査では、出土土器の研究から同遺跡の都市的な役割を提唱。

講師 / 石野 博信氏
(兵庫県立考古博物館館長)

大安場史跡公園
TEL.024-965-1088
http://www.bunka-manabi.or.jp/ooama

縄文時代の人たちは、いったいどのような食生活を送っていたのでしょうか。今回は郡山市富久山町堂坂にある妙音寺遺跡の発掘事例から、当時の食糧事情を考えてみたいと思います。

縄文時代の食糧事情



縄文時代の狩猟活動

縄文時代の人たちは、山に住む動物を獲ってその肉を得ていました。妙音寺遺跡では狩りの道具に使われた石鏃(石の矢じり)などが見つっています。

また、動物を落とす「罠」である落とし穴も多数発見されました。おそらく、複数の人で動物を追い立て、あらかじめ用意してあった落とし穴に落とし、近づいて仕留める……そんな狩りが行われていたと思われます。



石鏃(せきぞく)



落とし穴

縄文時代の主食?

縄文時代の人たちにとって、最も重要な食べ物だったのが、クリやクルミなどの堅果類です。堅い殻に包まれた堅果類は、長い期間にわたって保存することも可能でした。当時の人たちにとっての主食だったと思われます。

妙音寺遺跡ではクルミの殻が見つかりました。おそらく中の実を取り出したのち、廃棄したと思われる。



クルミの殻

地下食糧倉庫

妙音寺遺跡では、食糧の貯蔵に使用したと思われる穴(貯蔵穴)が190基も見つかりました。貯蔵穴は穴の口が小さく、底に向かって広がっています。このような形は、温度や湿度をある程度一定に保つことができるので、食糧の保存に適しています。

貯蔵穴からは当時の人たちが使用したと思われる土器がたくさん見つかりました。写真の259号土坑には、30個以上もの土器が入っていました。



土器の中から見つかったカワシンジュガイ



大量の土器が入っていた貯蔵穴

縄文食の復元!



古代の人たちが食べていたと思われる食べ物を再現してみました。では、昔の食材や調理法を見ていきましょう。

